



## 夏の交通事故防止運動

8月1日から  
8月31日まで

- シートベルトをつけましよう
- ヘルメットをかぶりましよう
- 交差点では安全な速度で

起きてからでは遅い

## 守ろう交通ルール

(交通安全の作文より)

### 交通安全について

三隅中学校

二年 佐々木利倫



ぼくは、今、自転車で通学している。自転車に乗っていて危いと感じたことは何度かある。それは自分の不注意の時もある、相手の不注意の時もある。

しかし、大部分は、たとえ相手の不注意であっても、自分がよく注意すれば危険は防げると思う。たとえば、自分の視界から外れている所から急に人がとび出してもゆっくり走っていたり、また、止って確認したりすれば危くないはずだ。

だが、実際はスピードも落さずそのまま走り抜けることがほとんどである。こんなことはぼくだけではないだろう。ほとんどの人がめんどくさがって止ったりスピードを落すようなことはない。確かに曲がりかどでは、せつたいにス

ピードを落とさなければならぬという事はない。この場合は歩行者もよく注意すれば、危い思いをしなくてもすむと思う。しかし、お互いに注意しても危いと思うようなことがおこることもある。

たとえば、バスが道路の横に止っている時止ってそのままずっと待っているわけにはいかない。だから、よく見たつもりで走り出す。バスの横のあたりはバスの運転手の視界からは、はずれているだろう。だからバスが急に走り出すことがある。こんな時は自転車とバスとがぶつかりそうになることがよくある。

こんな場合は、おたがいに注意していたつもりであっても、これは、つもりであって細心の注意ではない。こんな場合、自転車側は少し大回りぎみに走ればよい。また、バスの運転手は発車する時、横や後ろにだれかいないかを確かめ発車すれば良い。

しかし、それは理想であって、実際は実行しろと言われてもなかなか出来ないのが現実だ。

だが、こう思って注意しているだけでも事故や危険を感じる事が少なくなるのではないだろうか。

なぜなら、こう思っていれば、理想まではいかなくても、それが頭の中に残っていて、自然と実行するようになると思うからだ。

それからは、時々父の自動車に乗る事がある。乗っている時ふだん自分が自転車で行っているような事に危険を感じる事があるのだ。

それは、自転車で左折する時には、たとえ自動車が行っているでも自転車は常に左を走っているのだから自動車にぶつかるような事はないと考えて走っていた。だが、これは、大きな間違いであった。確かに自転車の前輪は自動車にぶつかりそうになることはなくても、後輪は道路の内側に来たりする事があるからだ。

つまり、自分たちがふだんしていることで危険をおかしていることがあながいあるのだ。こんな時はやはり自動車を先に通すというような、譲る気持ちがほしいと思う。

やはり交通安全は、お互いに譲りあうということだとぼくは考える。

## 交通安全

明倫小学校

六年 高崎千也子



五月十一日から、春の交通安全運動がおこなわれ、一年間に多いお年寄りや、子供の交通事故をなくすための運動でした。

近所にも、交通事故にあって、体の不自由な人がいます。その人を見てみると、交通事故

がどんなにおそろしいものかよくわかる。

ちよっとした飛び出しでも、車のスピードが出ていたら、大きな事故を、まねく事もあります。特に、雨がふっていたりすると車は、スリップして、止まりにくくなります。

自転車でも同じことだ、私は、いとこと、二人乗りをしていて、後ろから来た車に、ひかれそうになった事もあります。自転車では、特に、こうさてんで、子供と、トラックの、させつ事故が多いです。

トラックの前部との間が、少しあいていても、後部では、もっと近くよってたおされたりします。私たちが、一人一人みんなが、事故をおこさないように、十分に気をつけましよう。

「事故なしよ、」

ちかうよい子の

明倫校」



こうなつてからでは

おそすぎます